



セネガルの子どもたちに教育を！

バオバブの会 ニュースレター

2014年 No.1

(通巻32号)

1月19日発行



新年のご挨拶

バオバブの会会長 エル・ハッジ・マサンバ ディウフ

皆様

年の初めは、いつも、私にとって、バオバブの会創設とその歩みを助けてくださっている皆様への感謝の思いを新たにする機会です。改めて申し上げますが、バオバブの会の目的は、男・女、あるいは障がいのあるなしにかかわらず、すべての子どもたちに、その名に値する未来を開く機会を与えるために、セネガルの学校の中での教育環境と教育内容の改善を進めることにあります。これを目指して活動する中で、アフリカプリント布のバッグ、愛称ケベサックの製作をとおして経済的自立と生活改善に奮闘する女性グループ<Jigeen Nu Farlu ジゲン・ヌ・ファルルー>とのつながりも生まれ、バオバブの会の活動の成果が彼女たちにまで及ぶことになりました。それだけではありません。ひとつの国の未来は、その国の人々の日々の生活にかかっています。そして、ひとつの国の発展は、世界の発展につながります。ですから、皆様は、セネガルの人々、とりわけ子どもたちの現在の生活をより良いものにしながら、セネガルの未来、また、世界の未来に対してまで、貴重な貢献をしてくださっていることとなります。

このように、より良い世界を作る活動に参加して下さっている皆様すべてに、新年のご挨拶を申し上げます。皆様にとって、2014年が、平和と健康と繁栄と、仕事の中での、家庭の中での、また個人的なすべての試みの成功をもたらす年となりますように。

さて、昨年、アフリカに於いてテロリストの活動が顕著な年でありました。アルジェリア、ナイジェリア、ケニア、マリなどで起こったテロ活動の中のいくつかは、これまでにないほど残忍なものでした。例えば、イスラミストを自称する人々がマリを大部分を占拠し、人々を拘束し、男性・女性を問わず鞭で打ち、腕を切り落とし、殺害しました。アフリカとアフリカの人々のために誠実に働く、報道関係者など外国人の中からも、たくさんの犠牲者がでました。また、多くの捕虜が、未だ、祖国と家族から遠く離れた見知らぬ土地で、拘束状態にあります。

その後、マリでは、野蛮なイスラミストを撃退し、秩序を取り戻し、大統領選挙を行うために、フランス軍が介入しました。中央アフリカでは、イスラム教徒とキリスト教徒の殺し合いをやめさせるために、フランスと国連軍の支援を受け入れました。この状況を見ると、私は自問せずにはいられません。どうして、アフリカのほとんどの国々では、独立より50年以上も経ちながら、テロリズムから国を守ることでできる政府や軍隊を持つことができないのだろうか、と。

もちろん、アメリカ合衆国など世界の列強やかつての宗主国が、アフリカ人自身でアフリカの進むべき道を選ぶのを阻んできた、という事実があります。が、先の問いへの真の答えは、アフリカにはネルソン・マンデラのようなタイプの指導者があまりにも少ない、ということではないでしょうか。

アフリカとアフリカ独自の社会概念を象徴する指導者です。アフリカにも、かつては、社会とはどのようなものであるべきか、という社会についての概念があったはずなのに、今では失われてしまったのです。ですから、少なくとも、2013年のいつまでも人々の記憶に残るできごとであるマンデラの死が、アフリカの指導者たちに、人々の当然の期待とマンデラの教訓を思い出させる機会となるように祈りましょう。

アフリカの多くの国々では、人々に希望を与えなければならない指導者のかわりに、自分自身とその取り巻きの利益のみを考える大統領が生まれました。彼らは人々を困窮のうちにおき、不平・不満を増大させ、若者から仕事や希望を奪いました。ここから二つの結果が生まれました。ひとつは、何千人もの若者が、より良い生活を求めてヨーロッパに行こうとして、大西洋のもくずと消えたことです。もうひとつは、多くの若者が、大義も信念も信仰もなく、今日、明日の糧のために反乱軍の傭兵となって、暴虐な行為に手を染めたことです。

また、自称イスラム教徒のテロ集団に加わった若者たちもいました。彼らの場合は金銭を求めたのではなく、**lavage de cerveau**、いわゆる<洗脳>によって、テロリストとなったのでした。自称イスラミストが、このような、何もやることのない若者たちをいとも簡単に自分たちの仲間に取り入れることができるのは、若者たちに教育がないからだと思います。自分たちの宗教について正しい知識もないので、進むべき道を見失って、神の名のもと、ありもしない天国のために利用されてしまうのです。

しかし、幸いなことに、セネガルでは、宗教 — 主に、キリスト教、イスラム教、アニミズムですが — が、民主主義と近代化と共によく機能し合って、独立以来、内戦も大きなテロ事件もない、<民主主義の優等生>と呼ばれる社会を作ってきたのでした。したがって、宗教、特に全人口の95%が信奉するイスラム教の役割の重要性を否定することはできません。

これは、セネガルには、二つの種類の学校、フランス語学校とコーランを学ぶアラブ語学校が存在していることと、さらに、現在、各地で3番目の学校、フランコ・アラブ語学校が誕生していることを説明します。

バオバブの会は、このような状況を考えた結果、昨年、初めて、ひとつのアラブ語学校に支援をしました。そして、現在、ある長い歴史をもつコーラン学校が、フランス語と他の学問の授業を取り入れてフランコ・アラブ語学校に発展しようとして、私たちに支援を求めてきています。現在、運営委員会では、3月9日に行われる総会に向けて、彼らへの支援の可否を含めた、今年度の支援計画案を検討しています。

このように、アフリカという美しい大陸には、問題は多いが、希望がないというわけではありません。そして、確かに、大きな未来があります。セネガルを始めとして、ボツワナ、ガーボベルデ、タンザニアなどで、真の民主主義が定着し、年ごとに確固たるものになってきています。そして、多くの人々が自らの発展のスタイルを選ぶことができるようになってきました。本年、この喜ばしい傾向がより確かなものとなることを願っています。

そして、私たち、バオバブの会の活動も成功する年となるよう祈りましょう。私たちの仕事は、このところ支援の要請が増えていることで、ますます重要になってきています。これは、私たちの努力が役立っていることの証拠であり、同時に、この活動を継続していかなければならない理由ではないでしょうか。

最後に、もう一度、皆様に感謝申し上げ、新年のご挨拶としたいと思います。

♡ ♡ ♡ ♡ イベント情報 ♡ ♡ ♡ ♡

よこはま国際フォーラム <http://yokohama-c-forum.org/>

主催：よこはま国際協力・国際交流プラットフォーム運営委員会

よこはま国際フォーラム2014プロジェクト

(特活) 横浜 NGO 連絡会 公益法人横浜市国際交流協会 (YOKE) JICA 横浜

(特活) 教育支援協会 日本赤十字社神奈川県本部

日時：2月8日(土) 11:00~19:00 2月9日(日) 11:00~18:00

会場：JICA 横浜 横浜市中区新港2-3-1

参加費：事前申込 1日券 500円 2日券 700円

当日申込 1日券 700円 (事前申込優先 当日申込は1日券のみ)

事前申込方法については、HP <http://yokohama-c-forum.org/> をご覧ください。

“みんなで創る横浜の「国際協力」「多文化共生」”を全体テーマとして、横浜を中心に活動する52団体が、二日間にわたって、セミナー、ワークショップ、映画上映会などを行います。

バオバブの会は、2月9日(日) 13:00~13:50、4Fのセミナールーム4に於いてセミナーを行います。テーマは「イスラミズムと教育」です。多くの皆様のご来場をお待ちしています。

♡ ♡ ♡ ディウフ会長の学校訪問 ♡ ♡ ♡

去る12月21日(土)、ディウフ会長は、横浜市緑区の私立横浜翠陵高等学校を訪問しました。ディウフ会長は、2011年にも、6月と7月の2回、同校を訪問し、国際理解の授業協力を行っています。今回も、1年生の1クラス39人に、写真やビデオ、オリジナル紙芝居「みんなつながってる」を見せながら、セネガルの歴史、社会、人々の暮らし、子どもたちの様子、教育の状況などについて話しました。生徒たちからも、セネガルの自然環境、日本またフランスとの関係、人気のスポーツについて、学校制度ほか、たくさんの質問がありました。

★★★★ ことわざで開く、アフリカ文化の窓 ★★★★★

第12回 「健康」

エル・ハッジ・マサンバ ディウフ

(訳・文責 水野)

-Bonne Année!

-Merci. Bonne Santé!

これは、直訳すると「あなたにとって良い年になりますように!」「ありがとう! あなたの健康を祈ります!」といった意味になりますが、セネガルで、新年の最初の1週間、人々が出会うと決まって繰り返される、定型の挨拶です。

世界中のどこの国でも、人々は、人生の様々な宝の中で、Santé、すなわち健康が第一と考えているようですが、この新年の挨拶から、セネガルの人々も例外ではないということがわかります。

他のアフリカの国々ではどうなのかを知るために、ちょっと見回してみると、やはり、アフリカのどこの国でも同じように考えられているようです。とりわけ、ブルンジのフツとルワンダのツチの人々の間では明らかです。

人生の宝の第一位をめぐる、しばしば<健康>と競い合うことになるのが<財産>ですが、ブルンジのフツの人々の中では、<財産>には勝ち目がありません。彼らは<健康>を<すね>注1 に譬えます。私たちが直立し、かつ自在に動くのを主につかさどっているのが、まっすぐで頑丈な骨である脛骨を中心とした<すね>です。この<すね>が登場する次の二つのことわざ、「すねを持つ者は笑う」と「すねを持つ者は、もう、ソルゴーに不足することはない」によって、フツの人々が<財産>より<健康>を大事に考えていることがわかります。最初のことわざは簡単です。人は健康であれば幸せです。が、二つ目のことわざを理解するためには、ソルゴー注2 は穀物のひとつで、西アフリカと中央アフリカの多くの国々で、日本に於ける米と同じように主食であり、商取引の中でも重要な品目であったことを知る必要があります。そうすると、このことわざの意味は、人は健康である限り、金持ちになることを望むことができる、ということになります。なぜなら、健康なら、どんどん土地を耕して、たくさんのソルゴーを収穫することができるからです。

<健康>対<財産>。人生の宝の第一位を選ぶに臨んで、ブルンジのフツの人々が巧みな表現を使うなら、隣人であるルワンダのツチの人々はより率直な言葉で判定をくだします。「ひとくちの健康は、大きな壺いっぱいちちの牛乳に勝る」です。この譬えはおわかりでしょうか? 標準的なアフリカ人(私は、もう、そうではなくなりましたが)なら直ちに理解できるのですが。壺いっぱいちちの牛乳があるということは、たくさんの雌牛を持っているということです。雌牛は、伝統的なアフリカ社会では、十分に信用のおける今日の銀行口座と同じ意味がありました。雌牛が財産であったということは、次のようなツチの人々のことわざからもわかります。「休めない者には雌牛もない」。ここで、フツの人々が<健康>を<すね>に譬えるならば、ツチの人々は<休息>に譬えることに気付かれたと思いますが、このことわざの意味をつかめましたか? わからない? それは結構です。なぜなら、わからないと言うあなたは、本当の病気、あなたを深刻に苛む病気にかかったことがない、ということになるからです。人はそのような病気にかかると、ありとあらゆる効き目のありそうな薬や療法を試そうとして、始終、どこへでも出かけて行くからです。そうすると、病気が治るまで、休息も平静

さもないのです。このことわざは、また、次の二つの意味も伝えます。第一に、健康でなければ、働くこともできず、したがって、雌牛をたくさん持てるような金持ちにもなれません。第二に、もし金持ちだとしても、健康でなければ、金持ちであることを喜ぶこともできず、さらに、病気を治して健康を取り戻すために、すべての財産を失う恐れがある、ということです。

それにしても、どうすれば健康になれるのでしょうか？ どうすれば、一度得た健康を保つことができるのでしょうか？ いずれにしろ、チャドのガンバイの人々のことわざ、「**金で買えるのは健康ではない**」を信じるなら、ひとつのことが確かです。それは、健康は金では買えないことです。言い換えれば、人は健康以外ならなんでも買えるということです。ですから、大事に守る必要がある宝のように、健康を守らなければなりません。

他にも、健康に関して二つの真実があります。一つは、健康でいるためには、たくさん食べる必要はない、ということです。私が言っているのではありません。コートジボアールのアティエの人々が、「**食いしん坊でも休息は持てない**」と言っているのです。彼らも、健康でなければ休息はない、と考えていますね。そして、もう一つは、健康は体の大きさや形では決まらないことです。「**ちびだからといって病気ではない**」とルワンダのツチの人々は言います。

私の考えを申し上げますと、健康は、美しさ、知性、チャンス、出自、階層などと同様、恵まれたもの、つまり、運命なのです。何かをしたから得た、というものではないので、自慢することではないのです。もし誇っていいことがあるとするなら、＜健康＞という恵みを受けたら、それを謙虚に意識して感謝していること、そして、それを守るように努力していることです。結局、人は、時間にも自然環境にも逆らえないのですから、＜健康＞を守るための努力をしなければならない、というわけです。

健康を守るために、医者には、私たちに、良く食べること（たくさん食べることでなくても食べないことでもありませんが）、良く眠ること、そして、適度な運動を勧めます。ブルンジのフツの人々は、健康は食事に左右される、と考えています。「**吐き気をおこさないものが、人を太らせる**」。この場合、＜吐き気＞は＜病気＞、＜太る＞が＜健康＞です。つまり、「食べるものを選びなさい。体を害するものか、良いものかを考えて」ということです。また、最後の勧め、運動について、フツの人々はこう言います。「**よく耕す人は、自分を耕すことになる**」。土を耕すことは、表面を削り、穴を掘り、つまり、土地を手荒く扱うことになります。やり過ぎると、自分の体を手荒く扱うことになってしまいます。ですから、彼らの言いたいことは次の通り。「仕事は体の活動なので、健康を保つには望ましい。が、やり過ぎると、自分自身の体を手荒く扱って、却って健康を損ねることになる」。

貴重な宝、＜健康＞を保つのは、とても繊細な仕事です。健康は本当に壊れやすく、人は容易く、また確実に死に至ります。「**生まれるのは遅れることもあるけれど、死は遅れずにやってくる**」と、ツチの人々が言うように。

注1 脛骨を含んだ、膝からくるぶしに至る部分。

注2 イネ科のモロコシの一種で、特に糖分が多い。アフリカ原産。

♥ ♥ ♥ 会員募集 ♥ ♥ ♥

バオバブの会は、常時、会員として活動して下さる方を募集しています。
入会を希望される方、また、活動に関心をおもちの方は、下記までお問い合わせください。

バ オ バ ブ の 会

〒240-0052 神奈川県横浜市保土ヶ谷区西谷町993-35
TEL&FAX 045-373-0059 HP:<http://the-baobab.org>
代表 エル・ハッジ・マサンバ ディウフ
寄付振込先:
三菱東京UFJ銀行八重洲通り支店普通口座no.1523673
ゆうちょ銀行振替口座 00200=1 45215